

『初期生育確保に向けた管理の徹底』  
 ~目標収量の達成と 1 等級比率 90%以上を確保出来る稲づくり~

巻農業普及指導センター

**健苗を適期に移植し、スタートダッシュを決めよう！**

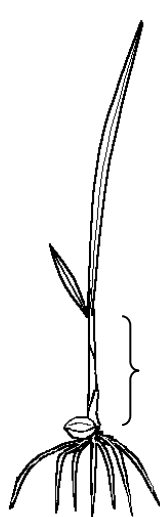
- 苗丈 12cm・2.0 葉の規格苗に仕上げましょう。(温度管理の徹底)
- 籾数過剰・倒伏で品質が低下したほ場では、基肥窒素量を減らしましょう。
- 移植前追肥で初期生育を確保しましょう。
- 多収性品種は、早生で 5 月上旬、晩生で 5 月中旬までに田植えを行いましょう。
- コシヒカリは、天候が安定する連休後半以降に田植えをしましょう。

【育苗後半～本田準備～移植期の管理】

※家の中が寒くても、ハウスの中は暑い！ 温度管理を徹底しましょう！

**1 育苗後半の管理** ~硬化の徹底と移植前追肥の活用で活着を促進~

- 田植え 1 週間前頃から、夜間もハウスを開放し外気温に十分慣らして硬化を徹底させる。ただし、夜間に低温が予想される場合は、早めにハウスを閉める。
- プール育苗では、異常低温時以外はハウスのサイドビニールを昼夜とも開放する。
- 田植え 4～5 日前に、窒素成分で 1 箱当たり 1～2g の移植前追肥を行う。

硬化期の管理	○基本的に終日無被覆とする。 ○稚苗は、田植え 5～7 日前から夜間もハウスを開放し、苗を外気温に慣らす。 ○稚苗は、田植え 4～5 日前に 1 箱当たり 1～2g の窒素追肥(移植前追肥)を行う(ただし、軟弱・徒長苗にはやらない)。	硬化終了時 葉齢 2.0L  第一葉鞘長 3.5～4cm	昼 15～20℃  夜 10℃以上	前半は 1 日 1 回 午前中に かん水 ↓ 後半は 朝と昼の 1 日 2 回 かん水
	プール育苗の硬化期の水位は苗丈の半分程度まで入水する。入水後はサイドビニールを十分解放し、徒長に注意。 落水は田植えの 3～4 日前に実施。			

「健苗+移植前追肥」で有効茎が安定して確保できます

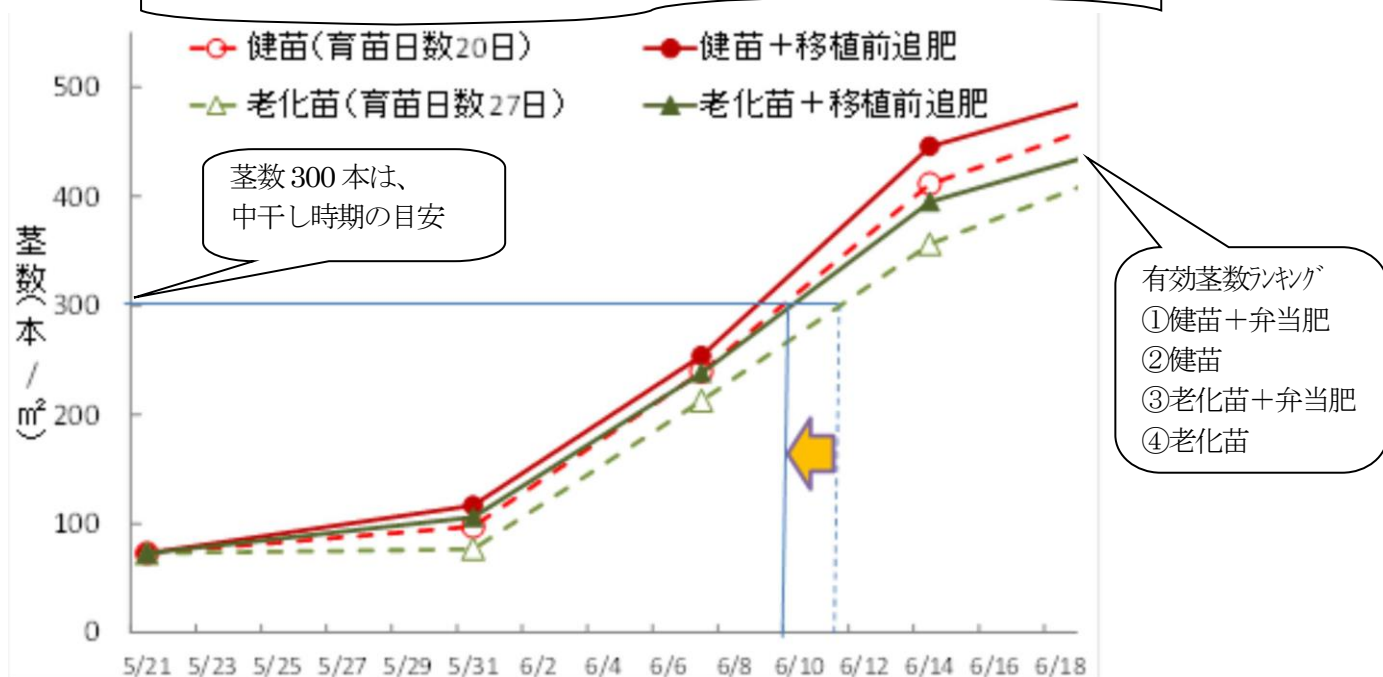


図 分けつ期の茎数の推移 (平25、26年作物研究センター)

注) 移植11~20 日後は低温条件。移植日は平成25年5月11日、平成26年5月9日。

## 2 本田施肥

- 基肥+穂肥の分施肥体系では、過剰生育を抑え穂肥がしっかり施用できる稲姿となる基肥窒素量を施用する。
- 基肥一発肥料で、前年倒伏したり、過剰生育だった場合は減肥する。
- 基肥を施用した後は、肥料成分の流亡を防ぐため1週間以内に耕うん・入水する。

## 3 田植え ~品種特性を踏まえた好天日の田植え~

- コシヒカリの極端な早植えは、出穂期が早まり高温下での登熟となり品質低下を招くため、適期に好天日を選んで田植えを実施する。
- 多収性品種では穂数を確実に確保するため、早生(ゆきん子舞、つきあかり等)で、5月上旬まで、晩生(あきだわら、いただき等)で5月中旬までに田植えを終える。
- 早生品種や茎数が確保しにくい場合は坪60株以上植えとし、初期生育を確保する。
- 活着するまでは「やや深水」で管理し、強風や低温による植え傷みを防止する。
- ワキの発生が著しい場合は、数日の夜間落水を行い、生育、発根を促進させる。

## 4 除草剤散布 ~適期の散布を心がけ、遅れずに散布~

- 一発処理剤のみの使用を基本とし、雑草多発生ほ場や作業体系上やむを得ない場合のみ初期剤等との体系処理とする。
- 初期除草剤を使用する場合は移植前処理を避け、移植時または移植後に使用する。
- 除草剤散布後は7日間は止水とし、農薬流出防止のため落水、かけ流しはしない。
- 気温が高いと雑草の生育も早まるので、散布適期を逃さないように、散布時期の範囲内で早めの散布を心がける。